

# なは地域貢献便り 1月

「なは地域貢献便り」は、那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。

## 第5回～7回的那覇市社会福祉法人等施設連絡会報告

### 那覇市の地域福祉の課題を2つに絞って報告・意見交換

## 1. 生活困窮者と社会的孤立

県都那覇市において、自治会の加入率が、27.3%(平成10年)から16.0%(令和2年5月現在)と著しく減少している。

平成22年度から平成30年度にかけて保護率の割合が30%から40%(1000人の内40人が保護受給者)と増加している。

一人親世帯の9割が母子世帯にあり、養育者世帯(親族等)が近年増加傾向にある。高齢者の単身世帯が14,263(平成21年度)から25,435(令和2年12月1日)にかけて、約1万1千世帯も増加傾向にある。

コロナの影響に伴い、多くの市民が生活苦となりコロナ特例貸付申請を行った。失業や休職等で収入が減少した方への貸付は、今年3月から12月現在までに那覇市で約69億円の貸付が決定し、世帯数割では、全国で一番件数の割合が高い。

また、特例貸付の対象にはならないが、これまでどこに相談していいかわからなかったという方々も、とりえず社協という問い合わせが増加傾向にある。

その他、那覇市内の孤立死の数も、年間100件弱というデータを説明。

### 事例1 「ゴミ屋敷から女性を救出したが 体埋もれ、両足は壊死」(他県事例より)

このような状況の中で、娘は母のことで相談できる人がいなかった。唯一良かったことは、心配している人(主治医)が気にかけていたことで一命を取り留めた。

### 事例2 「三兄妹の自宅死」(他県事例より)

民生委員が、一軒家に住む高齢の3人兄妹の家を訪ねたところ、新聞が溜まっており、警察に連絡。男女3人の遺体が見つかった。75歳の長女が病死、長男と次女の二人が餓死など自然死であった。介護が必要な長男と次女の面倒を見ていた75歳の長女が病死し、兄妹二人も死亡した可能性が高い。

人は支え合っていていきている。一人が欠けると全てが崩れてしまうこともある。

### 事例3 「フードドライブから繋がる支援」(那覇市社協事例)

経済的支援のみでなく、食料支援から繋がった民生委員が、間接的に寄り添って支援することが出来た等、生活困窮と社会的孤立の生活課題について社協から報告。

## 社会福祉施設で協力出来ること

フードドライブ運動をもっと深めて取り組むことを法人内で検討したい。法人800名の職員のなかでの旗振り役が必要と思っている。(葦の会)

法人800名の旗振りが必要!

葦の会  
三枝君枝 外来運営総師長



無料塾(子どもの居場所)の子ども達は、おやつがないと来ない子もいる。1日1食を無料塾のパンで過ごす子もいる。朝も提供するか検討しているが、朝ごはんの習慣がない子もいる。食の支援を通して無料塾の意義も繋がっている。◎社協と連携出来れば食糧支援配布も、地域から集めることも可能。(そてつの会)

地域の拠り所として!

そてつの会  
盛島光司 施設長



真和志地区にシェアマーケットを!

シェアマーケットの取組の中で、日々、相談業務に対応しており、(月に数件)内容によって関係機関へつないでいる。今後も状況に応じて、対応方法を検討していく。(繁多川公民館)

繁多川公民館  
南信乃介 館長



園を卒園後の青年の自宅へ、必要に応じて食料支援として頂いた物品を指導員が届けながら訪問し、大変助かっている。(石嶺児童園)

地域に必要性を訴えることが大事!

偕生会石嶺児童園  
上原裕 園長



40 数年間精神保健福祉事業に携わってきた。入院中から地域に

社会的な役割を誰もが求めている

一般社団法人ハーネス  
ボランティア会員 永山盛秀氏

関わってもらうことが大事。支援者と支援される側の誤解。「支援されている方も、昔頑張っていた人と認めると元気になる」。人の役に立つこと=社会的な役割を与えられると、回復力が早まることを活動を通して実感している。(ハーネス)



## 社協がやるべきこと

地域の情報や課題把握が大切。例えば、ウォーキングで、深夜に歩いていると色々な状況に気づく。夜中に、大声で怒鳴る声が聞こえたり、テレビの音がうるさかったりで見守りの視点を持てば、意外にも多くの情報がキャッチできる。民生委員にもこのような状況を伝えている。(正清会)



正清会  
久田護雄 事務長

無料塾で  
看護学校に6名、  
看護大学に1名の  
計7名が合格。  
継続したい



正清会  
大城盛博 看護部長

那覇社協が集まったフードドライブの受け取り場所と相談できる関係法人をマップで表示し見える化する。(そてつの会・繁多川公民館のシェアマーケット等)

今後も、那覇社協が連携しネットワークの輪を広げたい。また、困りごとの相談があった場合に、活用する共通の相談支援機関の連絡網や、簡単な聞き取りシート作成等



社協ともしっかり  
連携して！

食糧支援は、法人のネットワークで集めること。施設での食糧備蓄も可能です。(からし種の会)

からし種の会  
棚原信子 理事長

## 2. 高齢者等の外出支援について

山間部の交通空白地帯のみでなく、殆どの市町村の地域包括支援センターなどから「高齢者等の移動問題は、地域の最大の関心事」といわれているが、実際にサービスを創設する

には、道路運送法等法に抵触する部分などを理由に取り組みを躊躇している。そこで、実際に法人で所有する車両などを活用し、外出支援を行う場合の対応について伺ってみた。

## 社会福祉施設で協力出来ること

小禄みなみ診療所にて、既に支援を実施している対象者については、家族のサポートが得られない介護保険要支援者、見守りの必要な方に限定し、月1回スーパーの送迎を他法人と連携している。(城南会)

高齢者の外出  
支援の取組を！



医療法人城南会  
濱川尚志 管理者

- ・ デイサービス等の送迎車両の空き時間であれば、車両の貸し出しは可能かもしれない。
- ・ 事故などの保険関係も気になるので、勉強会が必要。(ゆうなの会)



ゆうなの会  
金城満 次長

必要な人に支援が  
届くように！

地域ともしっかり  
繋がりたい

必要なことには  
協力を惜しまない



沖縄中央福祉会  
国吉俊祐 係長

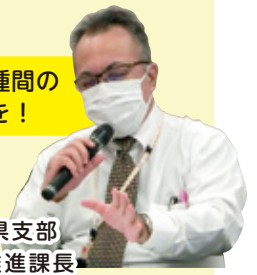


おきなわ共生会  
介護支援専門員  
仲西チエミ氏

事前の予約調整があれば、デイサービスの空き時間に車両と運転手の協力は可能(おきなわ共生会、沖縄中央福祉会)

関係事業者(交通関連)と多職種の連携協議が必要(赤十字社沖縄県支部)

多職種間の  
連携を！



赤十字社沖縄県支部  
池原栄作 事業推進課長

## 社協がやるべきこと

- ① ふくちゃん号ルートを中心とした社会資源のマップを作成。
- ② 現状では交通不便や移動困難な空白地域も多々ある。既存の移動手段では行きにくい場所が見えてきた。
- ③ 高齢者が、免許返納後も安心した生活ができる交通環境づくりが必要。
- ④ 法令を遵守して制度の狭間の課題に対応できるように検討していきたい。

### 「今後のなは社協の計画」

- A. 移動困難者に対するニーズアンケート調査
- I. 移動支援セミナーの開催  
1月15日 県総合福祉センター 2時から4時  
・ 法令遵守に伴う移送サービスの運営  
・ 車両事故の対応や、運転手の心構え、対象者の選定など
- U. 社会福祉法人等でつくる外出支援の試験的実施
- E. 運転ボランティア養成講座
- O. 本事業の動向を探る座談会

## 県社協の所見

このちゅいしいじい事業は社会福祉法人の役割を主に明記しているが、那覇市の特徴的な点は、NPO 法人や医療法人、一般社団法人等の協力が顕著にあること。社会福祉法人と共に公益的な事業の展開の実現可能な取り組みが素晴らしいと思う。